

デジタルアンプによるバイアンプシステム(1)
—バイワイアリングの確認—

1. 始めに

ステレオ誌付属のデジタルアンプを使って JBL4350A のマルチアンプ駆動についてデジタルアンプによるマルチアンプシステムと題し、オーディオ実験室のアンプのデジタルアンプのページに報告いたしました。

もう一つのメインシステムである FAL C90EXW は現在、平面スピーカーユニットとハイルドライバーユニットをバイワイアリングで駆動しています。今回、音色が統一された複数のデジタルアンプを使って FAL C90EXW のバイアンプシステムを検討することにしました。その準備段階として、しなの音蔵の 300B シングルからデジタルアンプに替えてバイワイアリングの確認を行うことといたしました。

2. バイワイアリングの試聴方法

しなの音蔵の 300B シングルから次の 3 機種 of ステレオ誌付属のデジタルアンプに替えて FAL C90EXW の鳴り方を確認します。

①LXA-OT1

池田工業ケース入り

オペアンプを Texas Instruments の NE5532AP に交換

②LXA-OT1

共立電子ケース入りモノとして 2 台使用

オペアンプを Texas Instruments の NE5532AP に交換

③LXA-OT3

共立電子ケース入りモノとして 2 台使用

オペアンプを Texas Instruments の NE5532AP に交換



左 : LXA-OT1 (2 台)
中 : LXA-OT3 (2 台)
右 : LXA-OT1

なお、これまで FAL C90EXW をデジタルアンプで駆動したことはなく、今回が初めての試みです。2 報目以降では上記の 3 機種 of デジタルアンプから 2 機種を選ん

で FAL C90EXW のバイアンプ駆動を行っていきます。FAL C90EXW のユニット構成の詳細やバイアンプの接続方法は次報で説明いたします。

入力信号のルートは、現在の標準となっている次のルートを使用します。

EMT981 (44.1KHz) /BZT-9000→ CCV-5 (96KHz) →SWD-DA10 (192KHz)
→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD (DA-3000 からクロック供給)

ここで、EMT981 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを、CCV-5 には 96KHz のクロックを、SWD-DA10 には 192KHz のクロックを供給します。また DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを供給します。

3. デジタルアンプによるバイワイアリング駆動の試聴結果

以上のデジタルアンプを使った無謀とも思われる JBL4350A のマルチアンプ駆動が、まずまずの結果であったことから予想されたことですが、300B シングルからデジタルアンプによる FAL C90EXW のバイワイアリングとしても意外と思えるクオリティを示してくれました。一つは入力系に GPS クロックを多用し、DA-3000 から MYTEK DIGITAL 192-DSD を経由する DSD の DSIF 伝送により入力信号のクオリティアップがあること、もう一つはアンプから FAL C90EXW への接続ケーブルにスピーカーリベラメンテを使用していることに由来するものと考えられます。

3 機種 of デジタルアンプを比較すると、①LXA-OT1 の池田工業ケース入りは、300B シングルの芳醇な味わいから後退し、あっさりしすぎて低域の力強さも不足することはやむを得ません。②LXA-OT1 の共立電子ケース入りモノとしての 2 台使用では、モノ使用により電源供給に余裕がでたせいか、音色的にはあまり変わらないものの、響きには余裕がでできます。③LXA-OT3 の共立電子ケース入りモノとしての 2 台使用では、LXA-OT1 から LXA-OT3 への音質向上への見直し効果が出ており、これら 3 機種の中では倍音の伸びも響きの良さも最上と言えます。

4. まとめ

JBL4350A のマルチアンプ駆動から予想されたとおり、デジタルアンプは FAL C90EXW のバイワイアリング駆動でも大きな音質劣化もなく予想以上のクオリティを示してくれました。特に、LXA-OT3 の共立電子ケース入りモノとしての 2 台使用では、これと言って不満な点を見つけることができないくらいです。

以上から次報以降で 3 機種 of デジタルアンプの違いを考慮しながら、2 機種を選択してバイアンプ駆動にチャレンジしてみます。

以上